

《資料 2022 年度町田市指定文化財候補》

【凌霜館跡】

指定種別：町田市指定旧跡

場 所：町田市立自由民権資料館敷地内

(町田市野津田町 897-1~3、898、899-1・3、900-1)

管 理 者：町田市教育委員会

内 容：凌霜館跡

製作年代：1883（明治 16）年 5 月 6 日（開場式日）

沿 革：1883（明治 16）年、村野常右衛門の企図により建立され、同年 5 月 6 日に開場式が催される。

大正初期に売却され同町内並木に移築される。

1980（昭和 55）年ころに取り壊される。

1984（昭和 59）年 11 月に村野常右衛門の孫夫妻村野順三・婉子両氏より凌霜館跡地として同地の寄付を受ける。

自由民権資料館開館時に「凌霜館跡」碑を敷地内に建立する。

法 量：移築され遺されていた建物は 20 坪（約 66 m<sup>2</sup>）程度（推定）

現 状：野津田町 897・898 番地に資料館があり、野津田町 899・900 番地は資料館敷地内の庭園である。

指定理由： 凌霜館は、自由党員村野常右衛門が若手運動家育成のために建立した文武館で、同様の文武館は、旧神奈川県域でも他に鴻武館（現八王子市）・貫徹館（現大和市）等の存在が確認できる。文武館は、明治 10 年代半ば以降、自由党中央の方針の壮士育成方針を背景として全国各地に建立されたもので、凌霜館も自由党の 1883（明治 16）年頃の運動方針を典型的に表している。

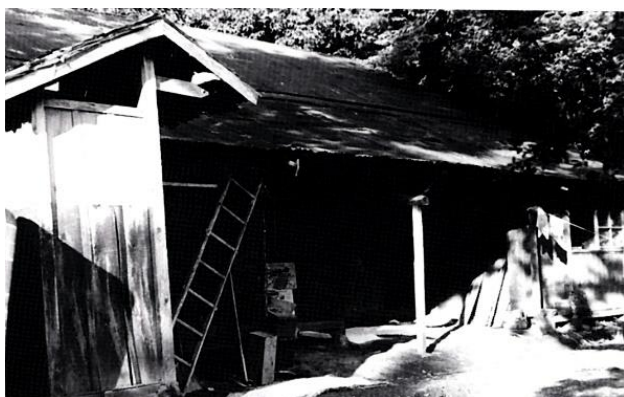
村野常右衛門は、最も多くの自由党員が参加した激化事件である大阪事件（1885＝明治 18 年）に参画するが、その背景には村野が抱える凌霜館生参加の期待があったと推定されている。また、1892（明治 25）年に凌霜館生が起こした大須賀明殺害事件は、同年に全国的に行われた選挙大干渉を背景にしており、日本における立憲政治・代議政治導入期の混乱を典型的に表す事件の一つと考えられる。また、『皇国武術英名録』（明治 21 年、小田原市立図書館蔵）で、凌霜館関係者の名を確認でき、市域に広く関係者がいたこと、市域外からの寄留者を確認することもできる。

凌霜館の所在地が当該地であるという明確な文献は発見されていないが、大正初期まで存在してきたこと、1896（明

治 29) 年生まれの村野常右衛門の長男廉一氏が色川大吉氏と編んだ『村野常右衛門伝』(2 冊) が上梓された 1971 (昭和 46) 年までご存命であったことを考えると、村野家には信憑性の高い情報として伝えられていたと判断できる。また、自由民権資料館建設時に、掘り起こされた土砂内から、開場式時に製作されたものと思われる「凌霜館」銘の盃が発見されており、これも当該地が凌霜館跡地であることの傍証といえる。

以上の内容から、町田市文化財指定・登録基準第 1「6 町田市指定旧跡」「(2) 著名な伝説地及び由緒ある場所・土地で市の歴史を理解するために重要なもの」に該当すると思われる。

凌霜館に使用されていた建物（移築後）（1970 年代撮影）



「凌霜館」銘入り盃

